

# 企業ニュース 京セラ

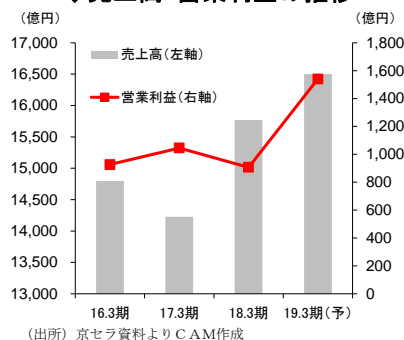
(東証1部：6971) <https://www.kyocera.co.jp/>

作成者：村上大志

## 電子部品大手の一角

1959年、ファインセラミックスの専門メーカー「京都セラミック」として創業。1982年、現社名に商号変更。得意とするファインセラミック技術を幅広い分野に応用し、現在では素材から部品、デバイス、機器、さらにはサービスやネットワーク事業にいたるまで多岐にわたり事業を展開している。情報通信、自動車関連、環境・エネルギー、医療・ヘルスケアを重点市場と定め、AIやロボットを活用した原価低減や生産性の向上、部門を超えた横断的組織を活用した社内シナジーの強化や外部との協業加速に取り組んでいる。中期目標として、21.3期の売上高2兆円、税引前利益率15%を目指す。

◇売上高・営業利益の推移



## 電子部品の需要増で業績は好調

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上高が8,006億円、前年同期比8%増、営業利益が826億円、同19%増。産業・自動車用部品事業は機械工具の需要の増加やM&Aの貢献、車載用カメラモジュールが好調だった。電子デバイス事業はスマートフォン向けMLCCや産業機器向けプリンティングデバイスが好調で業績をけん引した。一方、コミュニケーション事業は国内外ともに携帯端末の販売が減少し減収減益、生活・環境事業はソーラーエネルギーの国内住宅用の販売減や産業用の受注延伸等が響き、減収及び研究開発費等の増加で損失が拡大。

19.3期の会社計画は、売上高が1兆6,500億円、前期比5%増、営業利益が1,540億円、同70%増。MLCCの需要はスマートフォン向けを中心に期初想定を上回り好調に推移している。各種産業機械向けファインセラミック部品等も堅調に推移している。AIやロボットを活用する工場への設備投資を積極化しており、自動化による人員削減で生産性の向上が見込まれる。また、研究開発機能の強化としてソフトウェア関連の研究所を横浜に新設する。新規事業創出やオープンイノベーションの加速が期待されよう。ソーラーエネルギー事業は赤字が続くが、拠点集約が完了し構造改革が進んでいる点を評価したい。

### [株価動向・投資判断]

堅調な決算の発表で株価は反発した。会社計画に変更はなく保守的な印象である。

#### <6971 京セラ 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,422,754 (▲4)	104,542 (▲13)	137,849 (▲5)	103,843 (▲5)	282.6	110.00
18.3	1,577,039 (▲11)	95,575 (▲9)	131,866 (▲4)	81,789 (▲21)	222.4	120.00
19.3 予	1,650,000 (▲5)	154,000 (▲70)	190,000 (▲46)	134,000 (▲69)	369.5	120.00

(注) 19.3 予よりIFRSを採用している。19.3 予の伸び率は18.3 期の連結業績をIFRSに組み替えて算出している。



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/11/5)	6,240 円
年初来高値(高値日)	7,877 円(18/1/10)
同 安値(安値日)	5,613 円(18/3/26)
予想 P E R (19.3 予)	16.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	6,816.2 円
P B R	0.92 倍
予想配当利回り	1.92 %
(1株当たり配当金120.00円)	
R O E (18.3)	3.5 %
発行済み株式数	37,762 万株